



# 第5次やまなし食育推進計画策定に向けた論点整理



## 食育 「第5次食育推進基本計画」作成に向けた主な論点 (R7.6)

- 家庭における食育の推進
  - 親子で学ぶ機会の提供、乳幼児やその保護者に対する食育の推進 等
- 学校、保育所等における食育の推進
  - 栄養教諭の育成・配置促進、食料安全保障の確保等の観点も含めた**農林漁業教育の実践、市町村食育推進計画等への「農林漁業体験」や「給食での地場産物の利用促進」の位置づけ、学校給食への地場産物・有機農産物の活用及び郷土料理等の導入、保育所等での栽培や調理体験活動の推進** 等
- 地域における食育の推進 「大人の食育」の推進
  - 従業員等の食生活改善に取り組む企業の顕彰、食品事業者等による**単身・共働き世帯等の食生活改善につながる食品等の開発・導入、大学等での食や農に関する学びの機会の提供、食生活改善のための啓発・周知の強化、管理栄養士・栄養士と医師・歯科医師等が連携・協働した取組、こども食堂等の共食の場の提供等への支援、口腔機能の獲得・維持・向上の取組、災害等に備えた家庭での備蓄の普及啓発** 等
- 食育推進運動の展開
  - 「食育月間」等の取組の活性化・情報発信の強化、食育活動を推進する人材の育成、他分野（観光、スポーツ等）との協働、自治体別の取組状況の「見える化」 等
- 生産者と消費者との交流促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等
  - 農林漁業体験活動に関する情報発信、**農業体験に活用するための耕作放棄地の復元や小規模農圃の整備**、生産者と消費者の交流促進、地域の農林水産業や食文化への理解の醸成、環境に配慮した農林水産物等の選択に向けた消費者理解の促進、食品ロス削減の重要性の普及啓発 等
- 食文化の継承のための活動への支援等
  - 和食を食べる機会の確保、和食文化継承リーダーの育成・活用、伝統的な食のデータベースの充実、観光や文化振興等との連携による食文化への理解の醸成 等
- 食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進
  - リスクコミュニケーションの推進、SNS等を活用した分かりやすく入手しやすい情報提供、食品表示制度の普及啓発 等

## 食品ロス削減 「食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針」の修正 (R7.3)

- 第2次基本方針 (R7~R11)
- 前倒しで目標達成した**事業系食品ロス量**を、**60%削減へと目標見直し**（家庭系食品ロス量216万トン、事業系食品ロス量219万トン）
  - さらなる削減の取組が進むよう、具体的な施策を追加
    - ・「**食べ残し持ち帰り促進ガイドライン**」の周知、mottECOの啓発
    - ・**食品ロス削減推進サポーターの育成**
    - ・栄養教諭を中核とした指導の充実、配置拡大
    - ・「**食品期限表示の設定のガイドライン**」の周知・取組促進
    - ・事業者の災害時用備蓄食料の廃棄量の実態把握
    - ・「**食品寄附ガイドライン**」の普及啓発、食品寄附の取組支援の強化 等

## 第4次やまなし食育推進計画の振り返り

- 【達成もしくは順調に進捗している項目】
  - 食育推進応援団の登録件数（事業所）
  - 食の伝承マイスター認証件数
  - ◎食品ロス削減推進応援団の登録件数（事業所）
  - 栄養教諭による地場産物を活用した食に関する指導回数
  - 学校給食における地場産物の使用割合（金額ベース）

活動の活性化

一層の強化・充実
- 【進捗が遅れている項目】
  - △朝食を「食べない」「食べない日が多い」児童生徒の割合
  - △朝食を抜くことが週3回以上ある若者（20歳～39歳）の割合
  - △県民（20歳以上）の1日の食塩摂取量
  - △運動や食生活等の生活習慣の改善に取り組んでいる人の割合（40～59歳）
  - △食の安全・安心ポータルサイトへのアクセス数

取組の継続  
取組手法の見直し

## 食を取り巻く環境と県民意識

- 【食を取り巻く環境】
  - 社会情勢
    - ・共働き世帯の増加
    - ・ICTの普及
    - ・自然災害等の非常事態に対する防災意識の高まり
    - ・食料を中心とした**物価の高騰**
  - 食生活・健康の状況
    - ・家族や地域等での共食機会の減少
    - ・**栄養バランスを欠いた食生活の増加**
    - ・**子供・若者の朝食欠食の深刻化**
    - ・高い食塩摂取量
- 【県政アンケート結果 (R6.12実施)】
  - 食育への取組
    - ・認知や関心はやや低下、意欲はあるが実践できていない人が約半数
    - ・**農業体験やボランティア活動など日常生活にプラスした食育活動の実践は少数**
  - 郷土食の伝承
    - ・受け継いでいない人が3割超
    - ・「**家庭**」を中心に、「学校」や「地域」から教わる必要がある
  - 「地産地消」の取組
    - ・関心がある人は7割以上
    - ・新鮮な農産物の入手や地域農業の活性化が魅力
  - 食品ロス削減の取組
    - ・認知は拡大、**フードバンク活動への参加者は少ない**
  - 食に関する情報入手方法
    - ・**インターネット・SNSの活用**が高まり、テレビ・ラジオと同程度

- 栄養バランスや減塩を意識した健全な食習慣の実践の推進
- 地域の農林水産物や食文化を学び、体験し、継承する取組の推進
- 食品ロス削減につながる実践的な取組の推進
- 多様な媒体を活用した幅広い情報発信の推進